

インフォメーション・コーナー

会 告

○ 2025 年度農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10 月 31 日	58
○ 2024 年度 修士課程 2 年生などの皆さん 博士課程で取り組む研究課題を募集しています (第 2 期) 締切 9 月 30 日	59
○ お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付	60
○ CPD 認定基準の一部改正 (2024 年度から) —「その他の自己学習 (x)」の上限値等の見直し—	61
○ CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載	61
○ 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	62
○ 「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	62
○ 改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	63
○ 2025 年の学会誌表紙写真の募集 応募締切 9 月 30 日	64
○ 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2024 年 7 月から 2026 年 6 月までの編集体制と編集事務局	64
○ 北海道支部第 44 回研修会の開催 ㊦ 10 月 29 日開催	65
○ 第 73 回北海道支部研究発表会の開催 ㊦ 発表申込締切 9 月 27 日	66
○ 第 75 回関東支部大会講演会・地方講習会・情報交換会の開催 (第 1 報) 講演申込締切 10 月 11 日	66
○ 第 63 回土壌物理研究部会研究集会の開催 10 月 18 日開催	67
○ 第 45 回農村計画研究部会現地研修集会の開催 (第 1 報) 参加申込締切 10 月 25 日	67
○ SCIS&ISIS 2024 の開催 (Joint 13th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 25th International Symposium on Advanced Intelligent Systems) 11 月 9 ~ 12 日開催	68
農業農村工学会論文集 内容紹介	69
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム (一般参加可) 一覧 ㊦	70
学会記事	71

第 92 巻第 10 号予定

展望：シミュレーションモデルとサイバー空間：吉田修一郎

小特集：進化するシミュレーションモデル

報文：気候変動による野菜の単収の変動と畑地灌漑の効果の予測：白山幸一

報文：気候変動に伴う短降雨特性の変化と WEPP による水食予測：小池健介ほか

報文：脱炭素経営に向けた圃場巡回関連コストの「見える化」シミュレーション：山下良平ほか

報文：SWAP モデル、その特徴と日本での適用事例：濱田耕佑ほか

報文：浸透モデルと地盤動態モデルの融合による棚田安定性解析：原田茂樹ほか

報文：ABM とゲーム理論による水管理問題へのアプローチ：大倉美美ほか

技術リポート

東北支部：胆沢平野地区水管理システム更新による維持管理省力化：八重樫一也ほか

関東支部：ほ場整備事業計画策定時の環境配慮に係る協議事例：君塚 俊

関東支部：老朽化した排水機場の更新・整備：坂本一樹

京都支部：ゲート設備における二相ステンレス鋼選定にかかる検討：保木井貴雄ほか

中国四国支部：ため池改修工事における泥土改良工法の施工例：萩野和憲

九州沖縄支部：農地防災ダムの長寿命化と水防管理機能の強化：相良道臣ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちいたしております。

㊦のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこととございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2024年9月 10～13日	大会運営委員会	2024年度（第73回）農業農村工学会大会講演会	㊦ —	弘前市	91巻12号、 92巻1、2、3、6、7号
2024年9月 12～14日	農業農村工学サマーセミナー2024実行委員会	農業農村工学サマーセミナー2024	—	弘前市・オンライン	92巻7、8号
2024年10月 16～17日	中国四国支部	第79回支部講演会 第48回地方講習会	㊦ —	鳥取県	92巻6、7、8号
2024年10月 18日	土壌物理研究部会	第63回研究集会	不均一性とスケールの問題を考える	川崎市	92巻9号
2024年10月 29日	北海道支部	第44回研修会	㊦ みどりの食料システム戦略の実現に向けた取組（仮）	札幌市・オンライン	92巻9号
2024年10月 30日	北海道支部	第73回研究発表会	㊦ —	札幌市・オンライン	92巻9号
2024年10月 31日～11月 1日	九州沖縄支部	令和6年度支部大会（第105回講演会・講習会・シンポジウム・現地見学会）	㊦ —	福岡市	92巻4、8号
2024年11月 7～8日	農村計画研究部会	第45回現地研修集会	ルーラルイノベーション	山形市・山形県朝日町	92巻9号
2024年11月 19日	京都支部	第81回研究発表会	㊦ —	奈良市	92巻4、6号
2024年12月 13日	関東支部	第75回支部大会講演会・地方講習会・情報交換会	—	さいたま市	92巻9号

2025年度農業農村工学会賞候補の推薦

2025年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、締切は、2024年10月末日です。推薦書様式および授賞規程募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。は学会ホームページをご参照ください。

2025年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2019年10月から2024年9月までに発表されたものとする。ただし、その5カ年以内に発表したものと同じの課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2021年10月から2024年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同じの課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2021年10月から2024年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同じの課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2023年10月から2024年9月までに発表されたものとする。	2023年10月から2024年9月までに発表されたものとする。	2022年10月から2024年9月までに発表されたものとする。	2019年10月から2024年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織、団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者

賞の対象期間	2014 年 10 月 から 2024 年 9 月までに発表されたものとする。	2019 年 10 月 から 2024 年 9 月までに発表した活動とする。	2022 年 10 月 から 2024 年 9 月までに発表した活動とする。	2019 年 10 月 から 2024 年 9 月までに発表した活動とする。	2019 年 10 月 から 2024 年 9 月までに発表したものとする。	2019 年 10 月 から 2024 年 9 月までに発表したものとする。	2022 年 10 月 から 2024 年 9 月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							2024 年度末に 65 歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を 1 部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を 1 部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を 1 部提出する(いずれも返却しない)。		正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を 1 部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を 1 部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を 1 部提出する(いずれも返却しない)。	
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2025 年度(第 74 回) 農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2024 年 10 月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

2024 年度 修士課程 2 年生などの皆さん 博士課程で取り組む研究課題を募集しています (第 2 期)

農業農村工学会では、2025 年度支給開始[2024 年度修士課程 2 年] 学生などを対象に、「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」についての研究課題を募集します。

以下の募集要領に従って、ふるってご応募ください。応募締切りは、2024 年 9 月 30 日(月) 17:00 までです。

募集要領

1. 趣 旨

農業農村工学会(以下、「学会」という)は、「農業農村工学の進歩及び農業農村工学に関わる研究者・技術者の資質向上を図り、学術・技術の振興と社会の発展に寄与する」ことを目的としています。農業農村工学に関する重要な方針として、土地改良長期計画(2021 年 3 月 23 日閣議決定)があります。それを技術面から支えるのが「農業農村整備に関する技術開発計画(2021 年 11 月 公表, <https://www.maff.go.jp/j/nousin/gijutukeikaku.html>)」であり、そこに示された「あるべき農業・農村の姿」の実現に資する重要課題に速やかに取り組むことが求められています。

一方で、大学改革の推進や少子化の影響により、これらの課題に取り組む若手研究者が不足し、人材の確保と育成が学会の喫緊の課題となっています。

そのため、博士後期課程に進学し、研究に取り組もうとしている学生などの研究活動を支援するため、学会では、(一財)日本水士総合研究所(以下、「水士総研」という)(<http://www.jiud.or.jp>)の公益目的事業である「農業農村整備事業に関する調査研究」からの委託などを活用して、「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」(以下、「支援事業」という)を創設し、博士後期課程学生への研究課題に対する支援を行います。これにより、農業農村整備技術の向上を図るとともに、関連する人材の確保と育成を目指し

ます。

2. 対象者、募集人員および取り組む研究課題

【2025 年度支給開始対象者】

2024 年度修士課程 2 年(博士前期課程 2 年)在学の学生もしくは、その既修了者で 2025 年度に博士後期課程(一般)[社会人コース等を除く]に入学見込みの 40 歳未満(2025 年度末時点)の本学会の学生会員または正会員を対象とします。なお、募集時点で学会の会員でない申請者については、採用後に学生会員に入会することを要件とします。

今回(2024 年度 第 2 期)募集する研究課題数は、4 課題以内です。なお、現在博士後期課程に在籍している学生や社会人の博士後期課程学生は、支援事業の対象としません。また、日本学術振興会の特別研究員制度の採用者も対象としません(併願は可能ですが、重複受給は不可)。

他の奨学金や助成制度による支援を受ける学生の応募は可能です。ただし、支援事業に研究課題が採用された場合に、現在受給している他の支援金を引き続き受け取ることが可能かどうかを、必ず確認してください。

採用後に取り組む研究課題は、2021 年 3 月 23 日に閣議決定された「新たな土地改良長期計画」を技術面から支える「農業農村整備に関する技術開発計画」に資する研究課題とします。考えている研究課題と技術開発計画との適合性など確認したいことがありましたら、気軽に事務局にお問い合わせください。

- (1) 土地改良長期計画の策定について：農林水産省(<https://www.maff.go.jp>)
- (2) 農業農村整備に関する技術開発計画(2021/11/26 公表) <https://www.maff.go.jp/j/nousin/gijutukeikaku.html>

3. 支援対象学生への支援体制

支援事業に採用後、研究課題に取り組む場合、研究課題に適

した国営事業等の研究フィールドの提供、学会が行っている学術基金や関係機関による調査研究費の支援など多角的な研究課題推進のための支援体制を組みます。さらに就職においては、学会が構築する「博士人材マッチングシステム」の活用が可能です（学会ホームページ <https://www.jsidre.or.jp/career-path/> を参照）。

4. 支援事業の規模

支援事業の規模は、1 研究課題当たり年間 100 万円とします。農業農村整備に関する技術開発計画に資する研究活動に使用するほか、研究活動を円滑に行う上で必要不可欠な経費の支出についても認めます。支援期間は、博士後期課程の 3 年間とします。なお、途中で事業の趣旨に沿わない研究課題に変更した場合は、支援を中止します。また、留年した場合でも支援期間は延長しません。留学や休学等で当該課程での活動を休止した場合は、支援を中断します。

5. 研究支援金の支払先

学会から学生個人の預金口座に年度当初までに振り込みます。

6. 選考方法

(1) 書類審査

申請に必要な書類は次の 3 種類です。

- ①進学しようとする博士後期課程、支援希望動機と取り組む研究課題名とその内容を記載した申請書（様式 1、顔写真添付）
- ②指導教員（応募時点）の推薦書（様式 2）
- ③これまでの業績リスト（様式 3）

(2) 面接審査

上記（1）書類審査の結果により面接を行います。

(3) 研究課題の決定

学会に設置した「博士人材育成研究小委員会」において、書類審査および面接審査の結果を総合的に勘案して研究課題を決定します。

7. 研究課題を行う学生の義務

研究課題を行う学生は、所定の様式（様式 4、A4、2 ページ、最終年度は 4 ページ）に沿って、年度末に指導教員の了解を得た年間研究活動内容を示す報告書を提出します。また、水土総研におけるアソシエイト・アドバイザーとなり、要請に基づき協力活動を行います。

アソシエイト・アドバイザーの協力活動は、毎年水土総研が開催する意見交換会での研究活動内容の報告、調査研究発表会での研究成果の発表と意見交換、「大学生の農業農村体験研修会」における必要に応じての参加、協力などです。

なお、これらの出席に必要な旅費等は、水土総研から別途支給します。

8. 研究課題の募集期間および選考時期

募集期間 2024 年 8 月 1 日（木）9：00～9 月 30 日（月）
17：00（厳守）

面接 2024 年 12 月上旬

内定 2024 年 12 月末

9. 博士課程（後期）修了後の就職先と返還の扱い

学会が構築する「博士人材マッチングシステム」に登録した場合、農業農村整備技術分野の求人情報を提供します。ただし、これは就職を制限するものではなく、就職先の業種や専門性によって支援事業の返還を求めることはしません。

10. 申請の方法

学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/career-path/>）より、申請様式 1～3（Word ファイル）をダウンロードして必要事項を記入の上、E-mail の添付ファイル（Word ファイル）にて「8. 研究課題の募集期間および選考時期」に示す募集期間内に下記提出先に提出してください（郵送は受付しません）。

各添付ファイル名には、ご本人の氏名を付記し、統一したパスワードをお願いします。パスワードは、別途、メールにてお知らせください。

（*申請書類に含まれる個人情報については、学会の「農業農村工学会の個人情報の保護に関する基本方針」に基づき厳重に管理し、本事業の業務遂行のみに利用します。学会ホームページ：<https://www.jsidre.or.jp> 参照）

提出先：農業農村工学会博士人材支援事業担当

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

11. 問合せ先

（公社）農業農村工学会 博士課程調査研究活動支援事業事務局
中 達雄，中村充朗，海老原茂樹

TEL：03-3436-3418

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付

ポストコロナの社会的状況を踏まえ学会では 2024 年度の学生年会費を免除しています。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途^{など}を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、その一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。

この度、持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を学術基金から公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充（⑦）を行いました。

使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

(1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）

（※特に記載がなければ（1）として扱います。）

(2) 条件を付した寄付

選定条件【

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発
- ③ ①、②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進
 - ・上記①、②以外、たとえば ICT など新たに取り組んでほしい技術
- ④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進
- ⑤ 若手研究者の育成の推進

⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

- ・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理
- ・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

詳しくは学会ホームページ（https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/）をご覧ください。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制

優遇措置（一般損金算入限度額＋特別損金算入限度額）が受けられます。また個人が寄付する場合は、所得税等の寄付金控除が受けられます。

CPD 認定基準の一部改正（2024 年度から）
—「その他の自己学習（x）」の上限値等の見直し—

近年、品確法や建設業法の下で CPD が評価され、また日本技術士会では「技術士（CPD 認定）」の運用が始まるなど、CPD の活用が進んでいます。その一方で、コロナ禍の行動制限によって研修の形態が「集合対面型」より、インターネットを介した「自己学習型」が増加し、参加証明が得難い研鑽機会も増大しています。

農業農村工学会技術者継続教育機構では、このような自己学

習型の研修実績を正當に評価するため、2024 年 4 月より、業務運営細則に定める「別表 2 教育形態区分表」を一部改正し、自己学習【x】の分類の記号を【x1】と【x2】に区分するとともに、年間上限値を他の主要な CPD 運営体と同等の合計 30 cpd（現在は 20 cpd）となりました。

なお、自己学習型の記録申請には、これまでどおり証拠書類の提出は不要です。

【別表 2】教育形態区分表の該当部分（下線部分を改正）

（改正後）

形態	分類Ⅰ	分類Ⅱ	記号	cpd 単位	上限値	証拠提出
⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	<u>x1</u>	0.5 H	10	－
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVD の視聴、e-learning の受講、語学習得、展示会での情報収集等	<u>x2</u>	0.5 H	<u>20</u>	－

（改正前）

⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	x	0.5 H	10	－
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVD の視聴、e-learning の受講、語学習得、展示会での情報収集等		0.5 H	<u>10</u>	－

CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもある CPD 個人登録者が在宅のまま CPD 単位が取得できることを目的に「CPD 通信教育」を実施しています。

2021 年 9 月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいようお願いいたします。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 9 号掲載の問題は 10 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録

（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4 判、1,500 字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約 1 カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第 92 巻・第 93 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4 判 1,500 字程度)
第 92 巻第 10 号 進化するシミュレーションモデル（仮）	終了
11 号 農業農村における野生鳥獣害対策の最前線（仮）	終了
12 号 —	公募なし
第 93 巻第 1 号 農業農村工学分野における AI の活用（仮）	終了
2 号 —	公募なし
3 号 —	公募なし
4 号 農村を安全に支えるには（仮）	10 月 10 日
5 号 食料供給の安定化と環境保全に資する農業生産基盤の新たな展開（仮）	11 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mail の添付ファイルにてお願い申し上げます。

学会誌第 93 巻第 4 号テーマ「農村を安全に支えるには」（仮）

農作業を行うため、また、農地や用排水路、ため池、農道などを支えるためには、人が現場に出ることが欠かせません。また、農村空間は、農業者だけではなく、地域住民など多くの人

たちが利用する空間でもあります。しかし、残念なことに、農林水産省による「農業用排水路における安全管理の手引」をはじめさまざまな対策が講じられている中でも、農業用排水路

やため池での水の事故、高所・法面での転落・転倒、車輛の転覆などによる死亡事故は後を絶ちません。また、豪雨時等に農地や農業用施設の見回りに出て亡くなる方も根絶できていないのが現状です。

このような事故の対策については、転落防止のための柵の整備、スマート農業やデジタルトランスフォーメーション推進のための作業の省力化・効率化や危険リスクの除去といったハード整備が考えられています。それと同時に、危険に近づかない、安全確保を最優先するといった意識面での対応、危険回避に関する広報の充実など、ソフトな施策の推進も必要であると考え

られます。このように、農村を支える活動の安全を確保しつつ、安全な農村空間を形成することは、農村の振興を図る上で、緊急かつ重要な課題の一つです。

そこで、本小特集では、農村の安全に関する課題の現状分析から、対応策の提案、農村の安全に貢献する新技術の紹介および課題、過去の対応策の評価まで、ハードな整備とソフトな施策の両面から、農村を安全に支えるために必要な技術・施策を、施工現場における知見なども含め産学官民で幅広く検討するための報文を募集いたします。

学会誌第 93 巻第 5 号テーマ「食料供給の安定化と環境保全に資する農業生産基盤の新たな展開」(仮)

わが国の農業は、食料供給の安定化や環境保全において重要な役割を果たしています。しかし、気候変動や世界人口の増加に伴う食料需給の不安定化により、輸入依存に対するリスクが高まっています。他方、国内では主食用米の需要の減少傾向が続いており、麦・大豆や野菜など需要のある作物への転換が求められています。こうした背景の中、「食料・農業・農村基本法」が改正され、気候変動などによる災害の防止や軽減を図ることによって生産への悪影響を抑えることや、環境との調和および先端的な技術を活用した生産方式との適合に配慮しつつ、農業生産基盤の整備や保全のための施策を講じることが新たに位置づけられました。さらに、水田整備では汎用化に加えて畑地化が明記されました。

農業従事者の減少が進む中で、食料生産を増やし、同時に環境保全を実現するためには、抜本的な技術革新とともに、新た

な時代に即した農業生産基盤のリデザインが必要です。水田の畑地化や、社会実装されている使用者の監視下(目視)で無人の自律走行が可能なロボット農機の性能を発揮できる農地の整備など、これらの取組みを推進・発展させていくために、農業生産基盤の新たなあり方を議論することは重要と考えます。

本小特集では、食料供給の安定化や環境保全を両立させる持続可能な新たな農業生産基盤の構築に向けた報文を募集します。具体的には、水田の畑地化、農業生産の維持向上との両立を目指す気候変動への適応策や緩和策、先端的な技術を活用した生産方式やスマート農業の推進を視野に入れた農業農村整備に関する取組みや事例のほか、基盤整備の将来的な展望、地域ごとの課題や可能性、新たな時代に即した基盤整備の役割や取組みについての提案や構想を幅広く募集します。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ(<https://www.jsidre.or.jp/journal/>)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文(テンプレート)の各ファイル(Word)を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧希望の皆様へ

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典は、2019 年 8 月 27 日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者(大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む)の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂 6

版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名、会員番号および購入年月を付記して(学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む)、下記 E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂 5 版から改訂 6 版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂 6 版から削除した用語の中から現在におい

でも参考になる用語を収録したものです。

2025 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2025 年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の形態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第 93 巻（2025 年第 1～12 号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず四つ切りを含む A4 以上 B4 以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙一光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含みます。なお、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm、B4 は 257×364 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき 20 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 2024 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りです。

6. 審 査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 93 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は 2025 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2024 年 7 月から 2026 年 6 月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering：PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」

（略称：PAWE）を発行しています。なお、Paddy and Water Environment 誌の略称は、これまで PWE としておりましたが、2022 年 11 月の国際集会以降は PAWE に統一されること

となりました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2023年のインパクトファクター（IF）は1.9であり、国際ジャーナル誌としての位置づけが確立しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など）
- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑輪換、施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界12カ国からEditor（22名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review、Article、Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

2024年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

・Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon KIM

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin LIN

National Taiwan University, Taiwan

・Editors 12カ国から22名

・Editorial Advisors 27名

・Chief Managing Editor

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

・Managing Editors

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea

Dr. Taeil JANG

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk National University, Korea

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taiwan

Dr. Katsuyuki SHIMIZU

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

Dr. Naoko OKA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Sciences(JIRCAS), Japan

編集事務局（2026年6月まで日本担当）

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

TEL: +81-42-367-5757

E-mail: taskkato@go.tuat.ac.jp

投稿先: オンライン投稿 (<https://link.springer.com/journal/10333>) になります。

投稿資格: 筆者が農業農村工学会員でPAWE誌の購読者であること。

投稿要領等: <https://link.springer.com/journal/10333/submission-guidelines> に詳細を記載しています。

発行スケジュール: 年4回（オンラインジャーナル）

購読料: 正会員・名誉会員 9,900円（税込）

学生会員（院生含む）4,950円（税込）

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先: 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員登録番号を明記の上、お申し込みください。

北海道支部第44回研修会の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 令和6年10月29日（火）13:00～

2. 会 場

札幌市・札幌エルプラザ 大研修室（4階）

（札幌市北区北8条西3丁目・JR札幌駅北口すぐ）

※ Webでのオンライン形式による実施を併用します。

3. テーマ

「みどりの食料システム戦略の実現に向けた取組」(仮題)

農林水産省は、地域資源の利用効率の拡大、合理的な加工・流通システムや安心な食料サプライチェーンの構築などを柱とする総合的な農業政策である「みどりの食料システム戦略」を策定し、将来の食料の安定供給を図るための方向性を示しました。持続可能な食料生産システムを構築するために、環境負荷への軽減と持続的な生産を両立するためのイノベーションが求められています。

そこで、本研修会では基本概念を再確認し、農村環境の活性化や有機農業によるCO₂ゼロエミッションの取組み、北海道で実施されている試験研究や活動について紹介します。

4. 参加申込み

北海道支部ホームページの参加申込専用サイトにてお申し込

みください。

5. 参加費用 2,000 円

6. 問合せ先

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内

農業農村工学会北海道支部事務局

担当：柏木淳一

E-mail：kashi_soil@agr.hokudai.ac.jp

TEL：011-706-3641 FAX：011-706-2494

講演者および開催時間等のプログラムに関しては現在調整中です。北海道支部ホームページに掲載しますので、どうぞご参照ください。

<http://www.agr.hokudai.ac.jp/nougyoudoboku/hokkaido-shibu/TOP.html>

第73回北海道支部研究発表会の開催

技術者継続教育機構認定プログラム認定申請中



1. 期 日 令和6年10月30日(水)

2. 会 場

札幌市・札幌エルプラザ ホール(3階)

(札幌市北区北8条西3丁目・JR札幌駅北口すぐ)

※ Webでのオンライン形式による実施を併用します。

3. 研究発表申込み

発表を希望する方は投稿原稿に先立ち、発表表題・発表者名をE-mail、FAXまたは郵送にてお申し込みください。

発表申込みの締切は令和6年9月27日(金)です。

発表申込者には折返し講演集原稿作成要領をお送りします。

講演集原稿の締切は令和6年10月7日(月)です。

4. 参加申込み

北海道支部ホームページの参加申込専用サイトにてお申し込みください。なお団体申込み(一括して複数名の参加申込み)の場合は支部ホームページから所定の申込用紙をダウンロードし、ご記入の上、送付してください。

参加申込み締切は令和6年10月21日(月)です。

参加申込みおよびプログラム等について、以下の北海道支部ホームページに掲載しますので、どうぞご参照ください。

<http://www.agr.hokudai.ac.jp/nougyoudoboku/hokkaido-shibu/TOP.html>

5. 発表申込みおよび問合せ

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内

農業農村工学会北海道支部事務局

担当：柏木淳一

E-mail：kashi_soil@agr.hokudai.ac.jp

TEL：011-706-3641 FAX：011-706-2494

6. 参加費用

学会会員：無料、非会員：2,000 円

PDF版の研究発表会講演集代を含みます。

冊子体の講演集を希望される場合は、参加費とは別に、3,000 円を頂きます。

第75回関東支部大会講演会・地方講習会・情報交換会の開催(第1報)

1. 日 時

支部大会講演会、地方講習会、情報交換会

令和6年12月13日(金) 時間未定

2. 場 所

(1) 支部大会講演会、地方講習会

さいたま新都心合同庁舎2号館 5階 共用会議室

(〒330-0081 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1

TEL：048-740-0489(関東農政局設計課))

(2) 情報交換会(調整中)

3. 参加申込み

(1) 講演会、情報交換会

参加申込締切日：令和6年10月11日(金)

(2) 講演申込み

申込締切日：令和6年10月11日(金)

原稿締切日：令和6年11月8日(金)

4. 問合せ先

長野県農政部農地整備課指導担当 武田、藤沢

〒380-8570 長野県長野市大字南長野字幅下692-2

TEL：026-235-7241 FAX：026-233-4069

E-mail：nochi-shido@pref.nagano.lg.jp

5. その他

詳細は本誌10号、長野県農政部農地整備課ホームページ

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nochi/nnkantotaiikai.html>)に掲載予定です。

第 63 回土壌物理研究部会研究集会の開催

令和 6 年度土壌物理研究部会主催の第 63 回研究集会は、「不均一性とスケールの問題を考える」をメインテーマとして、現状の課題や今後の展開について議論することにいたしました。本研究集会は、下記のようなスケジュールで開催いたします。大学・研究機関のみならず、国、地方公共団体、企業における研究者・技術者におかれましては、ぜひともご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

1. 日 時

研究集会 令和 6 年 10 月 18 日（金）14：00～17：00
（13時半受付開始）

2. 会 場

明治大学農学部（生田キャンパス）中央校舎メディアホール
（〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田 1-1-1）

3. 参加費 無料

4. 研究集会講演内容

テーマ「不均一性とスケールの問題を考える」

- ①「土壌物理性の不均一性に対する複数の解析的アプローチ、及び水田転換畑の排水性評価への応用について」
原口暢朗（農業・食品産業技術総合研究機構）
- ②「物質移動における異なるスケール間の捉えどころのない

関係」

斎藤広隆（東京農工大学大学院農学研究院）

- ③「団粒スケールの不均一な水分・溶質・ガス移動がもたらす根群域の好気・嫌気状態」

取出伸夫（三重大学大学院生物資源学研究科）

5. 参加申込み

Google フォーム(<https://forms.gle/YJwkPidSK8LJQ9WY7>)にメールアドレスと氏名等をご入力ください。部会ホームページ(<https://www.jsidre.or.jp/dojyo/>)からも登録できます。登録者に要旨集(PDF)を送ります。

6. 宿 泊

部会としての準備はありませんので、各自で対応をお願いいたします。

7. 連絡・問合せ先

農業農村工学会土壌物理研究部会事務局

〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8

東京農工大学大学院農学研究院 斎藤広隆・西脇淳子

TEL：042-367-5584

E-mail：nnsbukai-groups@go.tuat.ac.jp

第 45 回農村計画研究部会現地研修集会の開催（第 1 報）

1. 主 催 農業農村工学会農村計画研究部会

協 賛 農村計画学会

2. 日 程 令和 6 年 11 月 7 日（木）～8 日（金）

3. 場 所 山形県山形市・朝日町

4. テーマ ルーラルイノベーション

5. 趣 旨

ルーラルイノベーションの取組みは、都市部で先行しているイノベーションを農村部でも起こすことで農村地域の持続的発展を目指すもので、OECD では 2019 年から加盟国の中で調査を開始しました。日本においては 2023 年 1 月に山形県内で現地調査が実施され、2024 年 1 月の「山形県ルーラルイノベーションセミナー」においてその中間報告が行われました。

中間報告においては朝日町の榎平（くぬぎだいら）の棚田における棚田保全活動や県産物の地理的表示登録に繋がった山形県研醸会の取組みなどが高く評価され、住民が地域資源を活かして収益性を確保する活動や、それを自治体職員などが支える仕組みは人口減少の課題を抱える各国の参考になるとされました。

それらを踏まえ、現地研修では実際に OECD が調査に訪れた箇所や取組みに触れ、当事者から説明を受けることで農村におけるイノベーションについて考えていただきます。

6. 行 程（予定）

1 日目 11 月 7 日（木）

13：00 JR 山形駅

14：00～15：00 榎平の棚田（現地見学・棚田保全会の取組みの紹介）

16：00 宿泊場所（施設見学、懇親会）

2 日目 11 月 8 日（金）

10：00～11：30 山形酒のミュージアム（山形県研醸会による取組みの紹介）

12：00～13：00 昼食

13：30～15：30 遊学館（山形県のルーラルイノベーション推進に向けた取組みの紹介）

16：00 頃 JR 山形駅

7. 募集人数 30 名

8. 参加費・参加申込み

- (1) 参加費：2,000 円（一般）、無料（学生）

※現地までの交通費、宿泊費、懇親会費用は別途参加者の自己負担とする。

- (2) 参加申込み

申込期限：令和 6 年 10 月 25 日（金）

申込方法：下記 URL もしくは二次元コードにて必要事項を入力してください。

申込みフォーム：

<https://forms.gle/HFcHHqhwXgTEG7iD7>

問合せ先：農村計画研究部会 現地研修集会担当



山形大学農学部 榎原良樹

E-mail : kuwayoshi@tdsl.tr.yamagata-u.ac.jp

SCIS & ISIS 2024 の開催 (Joint 13th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 25th International Symposium on Advanced Intelligent Systems)

1. 主催 日本知能情報ファジィ学会

協賛 農業農村工学会ほか

2. 日程 2024 年 11 月 9 日 (土) ~ 12 日 (火)

3. 会場

アクリエヒめじ (姫路市文化コンベンションセンター)

〒670-0836 兵庫県姫路市神屋町 143-2

4. 問合せ先

SCIS&ISIS 2024 会議事務局

E-mail : scis.isis.2024@soft-cr.org

5. その他

詳しくは、SCIS&ISIS 2024 のホームページ (<https://soft-cr.org/scis/2024/index.html>) をご覧ください。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」(PAWE 誌) 購読料のお知らせと購読者の大募集!!

PAWE 誌は、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されており、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。2023 年のインパクトファクター (IF) は 1.9 であり、国際ジャーナル誌 (オンラインジャーナル) としての位置づけが確立しています。

PAWE 誌を購読することは、農業農村工学を専門とする研究者・教育者が自らの identity を確かなものにし、帰属する集団を自覚する役割を果たすものと認識しています。

PAWE 誌への投稿は投稿料、掲載料を無料としていますが、投稿者は学会員と同時に購読者であることが必要です。そこで、投稿者の負担を大きく軽減し、投稿しやすくしました。特に学生会員の支援強化のため、学生会員の購読料を大幅に値下げしました。

・会員・名誉会員：9,900 円 (税込)

・学生会員 (院生含む)：4,950 円 (税込)

PAWE 誌は水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理)
- ② 排水 (排水管理、排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良、土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発、水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節、地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生・陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画、土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境、土壌環境、気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換、施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興、条件不利地の支援策など)

是非この機会に購読者になって国際デビューを果たしましょう。

